

# 「大人生活」を充実させるヒ・ケ・ツ

2014年11月7日 開催

～ライフ・ビジネス・ソーシャルの3つとも楽しもう～

三井物産系列会社社長でありながら、PTA 会長を務める等、地域の子育てにも積極的に関わり、NPO 主宰者として社会貢献活動にも注力されている川島高之氏を講師にお迎えし、講演会を開催しました。学生・教職員 159名の参加者があり、川島氏の実践に根差したお話に聴き入りました。

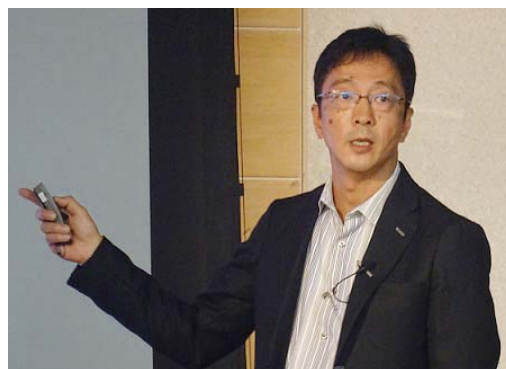


▲矢口男女共同参画推進室長

冒頭、矢口徹也男女共同参画推進室長より、女性の活躍推進は、政治の公約・政策として動き始めている。また、本学も Waseda Vision 150 に基づき、女性の大学構成員（教員・職員・学生）の増加を目指すなど男女共同参画を推進している。男女共に、将来の働き方・暮らし方を考えるロールモデルにしてほしい、と挨拶がありました。

将来は、「専業主婦(夫)」「仕事と家庭の両立」「仕事メイン」のどのパターンを希望している？ という問いかけに始まり、実は、どのパターンでもいい。世間は両立ありきだがそうではない。仕事と家庭のどちらかしか選択できないことが問題で、ようやく選択肢から選ぶ権利と環境が揃った、とワークライフバランスの在り方について説明がありました。続いて、イギリスやアメリカでは両方選べるのは当然という認識であり、先進国では、ワークライフバランスが流行すること自体、珍しいと先進国における日本の状況の解説からお話が始まりました。

さらに、自己紹介とともに、ご自身の Life・Work・Social の各活動について具体的な紹介があり、最も伝えたいことは、両立する人はできる手段を考える。できない理由を考えるのではなく、できる手段を考えられるかということと、講演の主旨を明示されました。子育ては義務ではなく、期間限定の特権。共働きなら共育てをしてほしい。女性活躍推進と裏表の関係にあるのが、男性の家庭・地域での活躍。女性の活躍には男性の働き方の変化が欠かせない、と強調されました。



▲人生は一度きり。仕事も、家庭も、社会貢献も、どれもあきらめず楽しんでほしいと川島さん

最後に、NPO 法人やコミュニティービジネスのニーズも増加しており、社会貢献の機会は増加している。自分の能力を仕事だけ・家事育児だけに発揮するのはもったいない。と社会貢献の意義を語られ、「両立のためには短い時間で高い成果を出す必要があり、プロフェッショナルになることが大切。Life や Social の活動を通して仕事能力も高まる。仕事の能力が高い人は、仕事以外の生活が充実している傾向があると感じる。組織の常識は世間の非常識。社外に出て多様性を身に付けてほしい」と、仕事以外の領域での活動が仕事の能力をも高めることを示されました。



参加者に実施したアンケートには、「『できない理由を考えるより、できる手段を探す』という、フレーズに感銘を受けた」「実際に実行されている男性からお話を聞くことができたのがとてもよかった。勇気づけられる内容だったと思う。」「social の部分については考えたことがなかったが、関心を持った」「今後の生き方に参考になった。人生は1度しかないので、すべてやらなきゃ損だと本当に改めて思った」、といった声が寄せられました。

本講演は、Course N@vi「男女共同参画推進室提供講座」より視聴できます。